

1. ヤンゴン市内、ミジャウンカンで土地騒動

現在、スポーツ大会（サッカーの試合）が開かれているヤンゴン市内のツ・ワ・ナススタジアムの近くのミジャウンカンで、土地騒動が起き、地域住民が赤のTシャツを着て、11/27から座り込みを続けている。

もともとこの土地は所有関係があいまいであり、地域住民がこの地で観賞用樹木を育てており、それが既得権益になっていた。しかし政府が都市開発のため住民に立ち退きを命じたため、住民が約60名が座り込みデモを始めたもの。

市政府は住民に、12月9日夕方6時を最後にミジャウンカン座り込みデモ現場から退出するよう指示したが、住民はそれを無視し、むしろその当日にも看板を追加して立てるなど、事態は緊迫した。その看板には、「法に従え」「先祖の土地を強引に取られた損害を緩やかに要求しているだけある」「乱暴は止めて下さいー大統領様」などと書かれている。現場住民は、「我々は直ぐに直ぐ土地を返せと要求しているのではない。いつ、どのように対応してくれるかをはっきり答えて欲しい。ちゃんとした返答が無い限り座り込みデモは続けます」と主張している。

開始から14日目、市政府は座り込みデモ現場に、看護婦2名を派遣、現場住民の健康に配慮。国会議員も徹夜して様子を監視していました。しかし、この現場ではなく当事件の関係で、ヤンゴン市内の市役所の前でストライキをする2名の人は逮捕され、刑務所に収容された。12/09の夕方、座り込み現場の人達は、この事件に関してアウン・サン・スーチー氏に調査委員会を組んで早期の解決を求めました。解決しない限りストライキは継続していくと発表した。12/13、ヤンゴン管区の農場及び多種類土地関係の調査委員会のメンバーであり、国会議員でもあるアウン・テン・リン氏と地域住民が協議し、今後3か月間で解決するという相互の約束ができたので、地域住民は座り込みデモをやめた。しかし地域住民は、3か月後になってもこの約束が厳守されない場合は再度、座り込みデモを敢行するという。



2. ティラワ経済特区の抱える問題点ー1

11/30、日本が官民挙げて開発を支援するミャンマーのティラワ経済特区で、工業団地造成の起工式が開かれた。2015年の一部開業を目指すヤンゴン近郊のティラワ経済特区(SEZ)では、食品・車両・電子・医療関連産業を誘致する予定。しかしティラワ経済特区はいろいろな問題点を抱えているし、開発途中でも問題点が噴出する可能性がある。まだ住民移転も完了していない。ティラワSEZ運営委員長のセッ・アウン中央銀行副総裁は、雇用機会の創出や人材育成が大きいとの期待を示し、ティラワでは「重化学工業の誘致は考えていない」とも述べているが、ティラワ周辺では現状でも肝心のワーカーが不足しており、副総裁の希望するような企業が大挙してこの地に進出してくる可能性は少ない。今回から、開発の進展を横目に見ながら、生じてきた問題点をそのつど報告していく。

①住民移転先で騒動発生

先行開発地の対象住民が移転するマインタヤ(Myaingthaya)地区では、現在、電柱と道路が整備され、約80世帯の住宅が着々と建設されている。ただしまだ電気は供給されていない。しかし移転してきた住民たちは、住宅建設補償金として250万チャットを支給されたが、実際には500万チャットが必要であるとして、現在、政府に補償金の追加を陳情中であるという。

反面、従来からこの地区に住んでいた農民たちは、新住民移転地として政府に農地を安く取り上げられたとして、新住民居住地の周辺に座り込むなどの抗議を行った。12/10時点では座り込みは行われていなかったが、農民たちの話では未解決であるという。



②ティラワで操業中の韓国系縫製会社の実情

ティラワ地域では、すでに韓国系縫製企業が工場を稼働させている。現在、従業員は500名規模であるが、ほぼ全員がチャウタン市からの送迎バス通勤（所要時間は30分前後）であり、地元からの徒歩通勤者は皆無であるという。ティラワ地域の人口は少なく、現時点でも人手不足である。この地で労働集約型企業を経営していくためには、送迎バスを手配するか、寮を建設するかの手段を取らざるを得ないだろう。ティラワ地域に、大勢のワーカーが自然に集積してくるまでには、10年の歳月が必要なのではないだろうか。



③ヤンゴンから通勤するのは不便

ティラワ地域までヤンゴンから通勤するには、渋滞なしで約2時間かかる。ヤンゴン市内の楽な勤務になれた社員には、この通勤時間は苦痛となるのではないかと。しかもヤンゴンとティラワの間には、大きなバゴー河があり、そこには橋が1本しかない。それも真ん中に線路を挟み、両側に一車線ずつの橋であり、事故でも起きれば、大渋滞は免れない。橋をもう1本架ける計画もあるそうだが、これから建設にかかったとしても、完成は数年後なのではなかろうか。苦肉の策として、ヤンゴン港からフェリーを往復させるという案も浮上しているという。

3. ミャンマーの汚職指数改善

世界各国の汚職を監視している非政府組織(NGO)のトランスパレンシー・インターナショナル(TI、国際事務局・ベルリン)は、2013 年版腐敗認識指数で、ミャンマーを177 カ国・地域中157 位とランク付けした。前年の176 カ国・地域中172 位から改善し、東南アジア諸国連合(ASEAN)加盟10 カ国の中では、カンボジアを抜き、ワースト1位から脱却した。ASEAN加盟10 カ国の中では、シンガポールが首位。以下、ブルネイ、マレーシア、フィリピン、タイ、インドネシア、ベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジアの順で続いた。

4. A D B が電力網改修に融資、民政移管後で初

12/09、アジア開発銀行(ADB)は、ミャンマーに6,000 万米ドル(約60 億円)の借款を供与すると発表した。ミャンマー政府は電力網を改修するために資金を利用する。ミャンマーでは配電網の老朽化を背景に送電中の漏電率が2012 年実績で最大18.2%に上っている。ADBからの融資で送電線や変圧器を更新することで、漏電率を4%まで引き下げたい考えだ。

5. イオン、ミャンマーの学校支援で7600 万円寄付

12/09、流通大手のイオンは、ミャンマーの学校建設支援のために集めた客からの募金と、環境保全と社会貢献活動を行うグループ主要企業「イオン1%クラブ」からの拠出金の合計約7,600 万円を日本ユニセフ協会に寄付し、東京都内で贈呈式を行った。

6. 最近の外資の進出情報

・三井住友建設、ヤンゴンに拠点開設

12/06、三井住友建設は、ヤンゴンに事務所を開設し、ミャンマーに再進出したと発表した。三井住友建設はミャンマーで、1980 年～90 年代にかけて、日本の政府開発援助(ODA)による橋りょう工事の技術援助のほか、セドナホテル・ヤンゴンやミンガラドン工業団地などの建築・造成も手掛けた実績がある。

・仏サノフィ、製薬市場開拓を本格化

大手製薬の仏サノフィがミャンマー市場の開拓に本腰を入れる。投入する医薬品のラインアップを増やすほか、妊婦の健康向上を目指す活動に着手する。

・伊チョコのフェレロ、ミャンマーにも販路拡大

12/05、イタリアのチョコレート菓子大手フェレロ・グループは東南アジア事業を拡大する意向を示した。新たに進出を計画しているのはベトナム、カンボジア、ミャンマーで、進出済みのシンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピンに加えて東南アジアでの存在感を高める狙い。

・シャングリラ・ホテル、2017年にヤンゴンで開業

ヤンゴンで2017 年にシャングリラ・ホテルがオープンする。ホテルの名称はレークサイド・シャングリラ・ヤンゴン。ヤンゴン中心部に近いガンドー湖近くに建設されるもので、客室数は350 室。3件のレストランが併設となる。

・仏アコー、2015年までにホテル6軒、開業予定

ノホテルブランドなどのホテルを運営する仏アコーがミャンマーでのホテル展開を急ぐ。複数の都市で相次いで開業させ、2015 年中には合計6軒にする計画。

・シンガポール金融管理庁、ミャンマーなどの中銀を支援

12/09、シンガポールの金融管理庁(MAS)は、ミャンマー、カンボジア、ラオス、ベトナムの東南アジア諸国連合(ASEAN)後発加盟4カ国の中央銀行に対する技術支援を行うと発表した。

・中国の山東普利建筑工程社、バゴで船舶・鉄道エンジン工場建設

12/06、中国の山東省済南市に本社を置く山東普利建筑工程の支援を受けて、ヤンゴン北部に位置するバゴ管区ヤイターシャイ郡区に、船舶や列車用のディーゼルエンジンを生産する工場が建設された。工業省が 6,685 万米ドル(約 69 億円)を投じ、工場では 2,000~2,200 馬力の船舶、列車用ディーゼルエンジンを年間 100 基製造する。

・比サンミゲル、ミャンマーでビール生産検討

12/09、フィリピンのコングロマリット(複合企業)のサンミゲル・コーポレーション(SMC)は、ミャンマーでビールの生産を検討していると発表。

・セコム、ミャンマーで警備事業開始

セコムが、2014年1月から、ミャンマーで警備事業を開始する。

・JCB、年明けにミャンマー全国で利用可

ジェーシービー(JCB)がミャンマーでの市場展開に本腰を入れる。現在、代金決済できるのは最大都市ヤンゴンなどの一部店舗にとどまるが、来月中にも全国で使えるようになる。

・三菱自、月内にも新車販売

12/12、三菱自動車は、今月中にもミャンマーで輸入車の販売を開始することを明らかにした。

・中国の中信工業、モーラミヤイン・セメント建設を受注

12/13、上海上場の機械設備メーカー、中信重工機械(河南省洛陽市、中信重工)は、ミャンマーのモーラミヤイン・セメントから、日産 5,000 トンのセメント生産ラインの建設の受注を発表。受注総額は1億 9,700 万米ドル。

・三菱自動車、マンダレーに2号店開設

三菱自動車は、マンダレーに「三菱自動車サービスショップ」を開設したと発表した。同ショップは、主に、三菱車の点検、整備、修理を行う。

・千代田化工建設、ヤンゴンでオフィス賃貸業開始

12/13、千代田化工建設は、ヤンゴンで、来年7月からオフィスビルの賃貸事業を始めると発表した。

以上